

ひとり暮らし高齢者の総合的支援策を！

ひとり暮らし高齢者（65才以上）は、昨年4、840人に。うち

介護が必要な人が1、108人おります。市は貧困単身者の受皿として、民間の「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅」が大きな役割を果たしているとしています。

しかし入居費が有料老人ホームで月9万4千円〜21万2千円、高齢者向け住宅で10万7千円〜13万2千円です。さらにデイサービス等の介護利用料が必要になります。入院時は食べない食事代まで請求される所もあり、低い年金ではとても入居は困難です。貧困高齢者の受け皿には理解できません。

未婚者が増え、国民年金納付率が5割台になって、単身・貧困高齢者の増加が予測されるなか、市は50年先老人が減るから「養護老人ホームを過大に整備しない」と、定員を減らそうとしており無茶苦茶な話です。

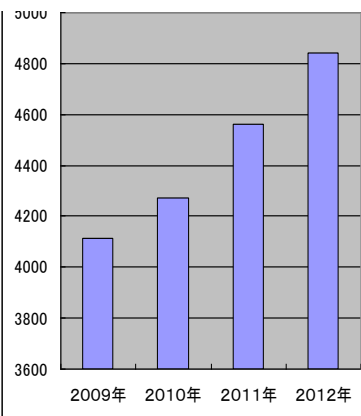
困難な事例に「医療、介護、福祉の連携」で対応を

病院から退院を迫られて、行き場を失う高齢者が増える中で、渋川の「たまゆら」の事件が起きました。行き先の見つからない困難事例に、民生委員さんまかせなども見られません。通報を受け、医療、介護、福祉の連携で、適切な対応をとるよう求めました。

30分500円のサポート支援を

前橋市は週一回のゴミ出し支援「こんにちは収集」を行っています。館林市では買い物支援策として、宅配を行っている事業者の紹介マップをつくりました。伊勢崎でも安否確認も兼ね

急増するひとり暮らし高齢者(人)



た、高齢者の買い物やゴミ出し支援策を求めました。五十嵐市長は30分500円の「シルバースポーツ隊の、こまりごと支援事業の活用を」との答弁です。ゴミ出しや買い物に、一回500円の出費が可能な高齢者がどれだけいるでしょうか。毎日の暮らしを支えるきめ細かい支援が必要です。

市民意識調査結果

合併後の伊勢崎

「四つの旧市町村の一体感」について、感じられない・どちらかと言えば感じられないが、境地区39・6%、赤堀、あずま地区も30%を超えています。「合併後のまちづくり」「行政サービス」についても旧伊勢崎市民の回答と比べ、満足度に大きな差があります(下表)。結果をどのようににとらえ、どう対応していくのか質問しました。

市長は、旧佐波地区はインフラ整備を主に行っていて、まちづくりは実感をえられにくい状況がある。行政サービスは窓口などの市民サービスの状況が各地区とも上位にあることから少

しずつ充実に向けて進んでいる。「違いがあることを認識した上で、特徴に基づく事業を展開、赤堀中学校建て替え、あずまグラウンドゴルフ場整備、境公民館建て替えなど進めていきたい」と意識に差がある事は認めましたが、年々改善されて問題ないという見解です。

住民の声に耳をかたむけ、なぜ多くの不満の声が出ているのか、認識し解決していく姿勢が必要です。



市民意識調査地区別割合(%)

